

第66回中国・四国地区 高等学校PTA連合会大会高知大会報告

県高P連副会長(山口高等学校PTA副会長) 角川 早苗

「はばたけ若人よ 郷土の大空へ」
〜みんなあ〜が願いうげよ〜を大会テーマとし、7月12日(金)、第66回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会高知大会が、高知県立県民文化ホールにて開催されました。中国・四国地区より高等学校PTA約1000名が、山口県からは63名が参加し大いに盛り上がりました。

梅雨真ただ中、出発前夜は線状降水帯の影響により豪雨となり出発も危ぶまれましたが、移動日は時折小雨が降る程度、新幹線とバスを乗り継ぎ、無事瀬戸大橋を渡って目的地の高知へたどり着きました。大会前夜の懇親会では、自由を尊重する土佐ならではの皿鉢料理に舌鼓を打ちながら、参加者の方々と親睦を深める機会を得ました。



大会当日は天気も好転し、南海の名城として名高い高知城を眺めながら会場入りしました。

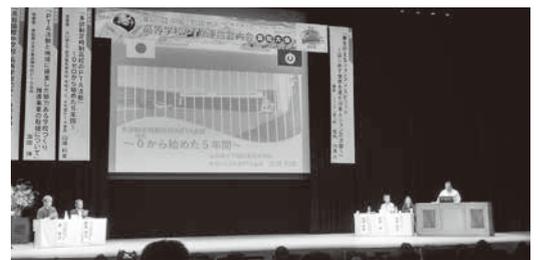
大会の前半は、「夢を叶えるジョンマンスピリット」〜初めて世界を見た日本人ジョン万次郎〜と題して、ジョンマン語り部の垣内守男氏による講演がありました。

高知といえば坂本龍馬であった私の浅い知識でしたが、垣内氏の講演を拝聴しながらジョン万次郎の人生に惹き込まれていきました。

幼い頃に父親を亡くし貧しい漁師の子であった万次郎が、どのようにしてアメリカへ渡り、10年の歳月を経て帰国して日米の架け橋となり、東京大学の前身である開成学校の教授として英語教育に携わるまでになったかを、クイズを交えながら楽しくご講話いただきました。

垣内氏は高知南中高等学校校長時代に、山口県出身の聖路加国際病院日野原重明院長を招いて講演会を開催した際、「世界のために命を使ったジョン万次郎」という話を聞いて、それからジョン万次郎に関する出版物のほと

んどを読み込まれたそうです。そして新時代を切り開いたジョンマンの「あきらめない」「投げ出さない」「人の役に立つ」というジョンマンスピリットを高知の子どもたちの教育財産にしたいとの思いに至ったそうです。



午後からは、高知県の高校生による発表がありました。太平洋に面した町にある学校では防災に特化したカリキュラムがあり、地域と連携した防災活動を実践しているとのこと、その活動と共に、地域や生徒の変容について発表がありました。また、ジビエ部のある学校では、森林率84%という高知の陸の豊かさを守るため、捕獲された鹿やイノシシなどをジビエとして活用・商品化・販売し、得られた利益で森林保護活動を支援している部活動の発表や、模擬株式会社社員としての「国際協力」と「地域貢献」を目的とし、ラオスの学校建設活動に取り組んでいる発表などがあり、多種多様な4校の発表はどれも興味深いものでした。

最後はPTAによる研究協議がありました。山口県からは下関双葉高等学校の山崎利幸PTA会長が「多部制定時制高校のPTA活動」というテーマで発表され、平成31年に開校し生徒が自分の生活のスタイルや将来の進路希望に応じて主体的に学ぶことができる新たな教育システムにおけるPTAの在り方について協議しました。

根幹を大事にしたPTA活動は、柔軟な教育システムによって創造された生徒の多様な考え方を尊重しながら、将来を担う大切な人材の育成をサポートできる活動に昇華させて行かなければならない、と決意を新たにした大会への参加となりました。

